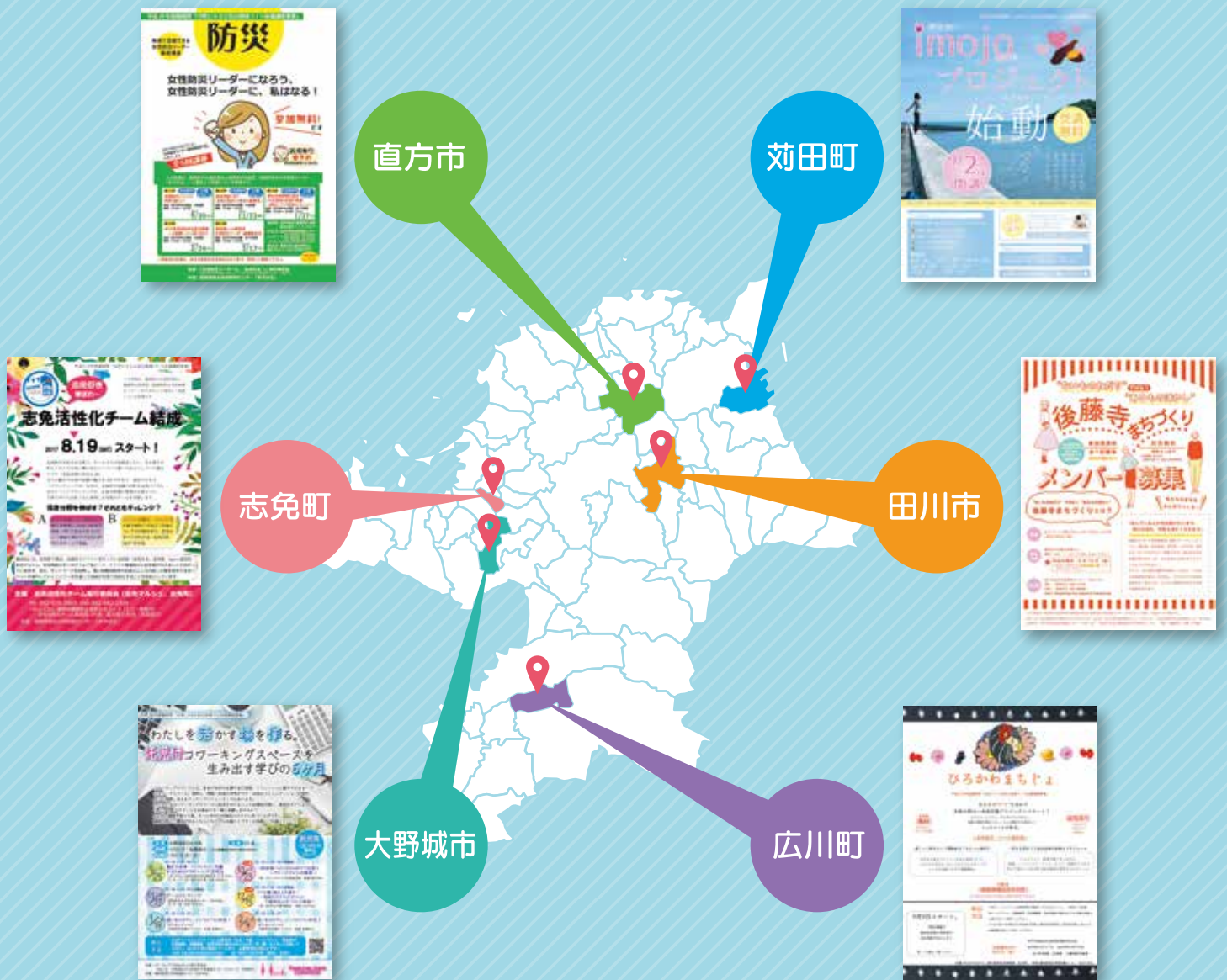


元気塾 報告書

\\ まちの課題解決に取り組んだ、私たちの報告書 //



平成30年2月26日(月)、クローバープラザにて「女性による元気な地域づくり応援講座事業(通称「元気塾」)」の報告会を開催しました。平日の午後にも関わらず福岡県内だけでなく、埼玉県や佐賀県からも、100名を超えるたくさんの方にご参加をいただきました。

今年度実施した、直方市、田川市、広川町、大野城市、志免町、苅田町それぞれの取組事例をご紹介します。

女性防災リーダーに、私はなる!

主催：「女性防災リーダーに、私はなる!」実行委員会
 (直方男女共同参画「夢ネット」・直方市男女共同参画センター・直方市)

私たちが目指したこと

地域で活躍できる女性防災リーダー養成講座「女性防災リーダーになろう!女性防災リーダーに、私はなる!」として全5回の講座を開催しました。直方市で今までに起きた水害や全国の大規模災害現場の実情を知り、特に東日本大震災後全国が注目した「釜石の奇跡」の教訓を伝えるために釜石の皆さんが出演し作成された動画からは、普段から「命」に向き合う訓練を積み重ねていたことで数多くの命を守ったことを教えられました。最新の災害データからは、私たちが暮らすこの町で大災害が起きる確率が非常に高いことも学びました。熊本地震では、東日本大震災後に必要性が確認された女性や子どもなど要支援者へのケアの視点が、女性団体のネットワークを通じて活かされたのだそうです。被災地支援に当たられた講師の先生方による講座により、参加者全員が「自分の身は自分で守る」「日頃から人と人の繋がりをつくる」という意識がより強まりました。



私たちが行ったこと

講座終了後は、受講者から「市民と行政の分担を知りたい」「支援が必要な人のケアを確認したい」「実践につながる研修をしたい」そして「私たち市民自らが動く必要がある」などの具体的な意見が次々と出てきました。いざというときに命を守るために最も大切なのは「地域の力」だということ、を、全講座を通じて確認することもできました。この学びを実際に活かしていくためには、各地区で普段から自治会や

自主防災組織に積極的に関わり、私たち自身が「地域の力」となり動いていく努力も必要です。最終回の講師 中嶋玲子さんは、日頃から地域活動に参加すること、防災の知識を専門的に学び防災士資格等を取得すること、女性が出来る限り経済的な自立を目指すこと、そして非常時に女性の声が「同調圧力」に負けることがないようにということを強調されました。甚大な被害を受けた朝倉市杷木のコミュニティを復活させようという強い思いを持つ中嶋さんのお話は、「防災リーダー」を目指す私たちの心を大きく力づけてくださいました。

成果と今後について

本講座は定員20名としていましたが、結果40名が受講し修了しました。受講者は高校生から70代まで幅広い年齢層です。受講者からは毎回熱心な質問や感想、意見が次々と寄せられました。修了式後には「直方市女性防災リーダー組織」が発足し、これからは自立した歩みを進めていきます。新たに歩み始める団体がこの講座によって生まれた事もとても嬉しく思います。より多くの市民の方々にこの取組みを知っていただき、防災に男女共同参画の視点が重要であること、そして「みんなで地域を支えていく」意識が重要であることを共有し、進めていきたいと考えます。



“ないものねだり”ではなく“あるもの活かし” 後藤寺まちづくり

主催：ないある後藤寺実行委員会

(TAGATAN CLUB・田川市男女共同参画センター「ゆめっせ」・田川市)

私たちが目指したこと

この活動は、日常的に自分のまちの取組みの情報から蚊帳の外に置かれている女性が多く、今後、まちづくりの基礎となる整備計画を策定する行政に、そこで暮らし、行き交い、まちの活性化を望む人の声が届かないままに、私たちのまちが、皆が望まない方向に整備されてしまうのではないかと不安に感じたことがきっかけでした。

近年の社会は、新しいものをどんどん取り入れ、秒速で変化しています。しかし、私たちは、昭和の香り漂う田川の、後藤寺のまちで、暮らし、働き、学校に通っています。華やかだった後藤寺を知っている世代も、まったく知らない世代も、共通して思うのは、今の寂しいまち後藤寺です。かといって、「ないものや、新しいものをねだっても仕方がない、今あるものを活かすしかない!」そんな思いで、この『ないものねだりではなく、あるもの活かし後藤寺まちづくり』が始まりました。「後藤寺をなんとかしたい!私たちのまちとして応援したい!」と13歳~86歳までの後藤寺のみならず、他の地域や、市外の方まで42名がメンバーとして集まりました。



私たちが行ったこと

事業スタートから、その関心の高さは驚くほどでした。8か月にわたり、真剣に、まちを歩き、見て、聞いて、感じて、考えて、未来の後藤寺をわくわく想像しながら、気が付けば共感者はさらに増え、メンバーは52名へ。ついには、後藤寺のために自分になにができるのかを、自分事として考え行動する覚悟を一人ひとり宣言しました。

その思いや覚悟を田川市への提案書に込めて、市長へ直接、各世代の代表がプレゼンしました。後藤寺の歴史や文化を重んじながらも、時代の流れや世の中のニーズに応じ、未来を想像し、まちを創造していく、次世代に誇れるまち後藤寺となるよう、この提案をこれからの後藤寺のまちづくり整備や、後藤寺地区都市再生整備計画などの参考やアイデアとして活用し、また、策定委員会などにメンバーを参画させていただきようお願いします。

重ねて、まちの中で報告会を開催し、後藤寺の金融機関、教育機関、企業、議員などを招き、8か月の私たちの活動を通して提出した市への提案書について皆で共有する機会を設けました。皆のアイデアと行動でまちの再生ではなく新生を願う気持ちに、関係機関の皆さんもそれぞれの立場でできることを発言いただきました。そう、まちのあらゆる立場のみなさんが、本気の私たちに共感し、応援の連鎖が生まれ、広がっていく瞬間がそこに生まれました。会の締めくくりには、この活動のきっかけとなった商店街振興組合の理事長さんが、「これからは女性の意見や力を取り入れていきたい!」と発言しました。

成果と今後について

関わる人が楽しむまちづくり、関わりたくなるまちづくり、年齢も、性別も、居住地にも垣根などない、お互いの課題や立場を尊重しながら、世代の声を世代を越えた声を、アイデアにし、行動し、形にしていくもの。それを応援していくもの。どちらも大切であり『だれもが主役になれるまち後藤寺』が生まれた、それが「女性による元気な地域づくり応援講座事業」の成果です。



ひろかわまちじょ 女性の明るい未来応援プロジェクト

主催：ひろかわまちじょ実行委員会
(筑後姉妹・広川町)

私たちが目指したこと

私たちひろかわまちじょは、好きなことで活躍する女性を町の資源の一つと考え、女性同士の繋がりをつくり、活躍できる場を町に増やすことを目指しました。

広川町は今、子育て世代の「女性」の転出が多い現状があります。それは、今まで子育て世代をはじめとする女性の集まりや団体がなく、町に女性の想いや考えを届ける機会があまりないことに原因があると感じました。

子育て世代の女性は、家庭と仕事の両立、仕事面では収入だけでなく時間に融通が利く仕事を望んでいます。

また、同様の環境にある女性同士が気軽に集まり、情報を共有したり学んだりする場所を求められていると感じたので、そのような場づくりをしたいと思います。



私たちが行ったこと

まず、町に住む、又は町出身の女性、近隣の地域の女性の中から受講生を募集し、好きを活かしたい、何かやりがいを見つけないなど様々な想いをを持った女性に集まってもらいました。

テーマを「好き×マチ」とし、町と女性の「好き」という想いをかけ合わせて、ワクワクする提案を最終的にプレゼンする流れで進めていきました。

取組みについては、好きなことで活動することをイメージしやすくするため、すでに好きなことで活躍しながらまちと繋がる女性の話を直にきける場を設けました。

次に町内フィールドワークを行い、改めて町を知ってもらった上で町にあるものを活かして具体例も交えて、総合デザインのことや情報発信について学ぶ場をつくりました。

また、「凜活」といって、凜としてタフで美しくしなやかで生き活きとし、自分が人生の主役であるという女性としてのあり方や考え方を知ってもらい、好きなことで活動する時に応援してもらう環境をつくるのに大切なことやワークライフバランスのことなど、女性ならではの学びの場をつくりました。

成果と今後について

この流れで進めていき、講座の中で受講生たちは共に学びを増やし、交流会やプレゼンに向けての企画をしていくことで、お互いの繋がりが深まっていきました。

繋がりが深まったことで、一人ではできないことでも一緒ならできるといった想いが生まれ、初めは受動的だったのが能動的に変わっていきました。

そして町に関わる様々な方を巻き込むワクワクするプレゼンへととなり、今後企画を実施する場の提案をいただきました。これからも任意のグループとして活動を続け、プレゼンで企画したものを実施していく予定です。

私たちはこの期間を経て、広川町に子育て世代中心の女性の集まりをつくることができました。今後も女性同士が繋がることができ、活躍できる場を増やしていきたいと思っています。



託児付コワーキングスペースを生み出す学びの6ヶ月

わたしを活かす場をつくる！

主催：コワーキングラボおおのじょう実行委員会

(ままいる・大野城まどかぴあ男女平等推進センター アスカーラ・大野城市)

私たちが目指したこと

大野城市は、市民団体「ままいる」、大野城市人権男女共同参画課、大野城まどかぴあ男女平等推進センターアスカーラで構成される「コワーキングラボおおのじょう実行委員会」を結成し、「託児付コワーキングスペースを生み出す学びの6ヶ月」と題した6回連続講座を開催しました。

「働き方改革・一億総活躍・男女共同参画」などの推進に伴い、「在宅ワーク・リモートワーク・テレワーク」などの「新しい働き方」が増加してきている現状を背景に、今後「家庭で保育をしながら働く」ことを選択する人の増加が見込まれます。保育と仕事の両立は想像以上に困難であり、育児ノイローゼ・ネグレクト・虐待など深刻な問題の引き金になる要因として危惧されます。私たちはこれを問題と捉え、託児付コワーキングスペースが「育児と仕事の両立支援」の役割を担うと考えました。



私たちが行ったこと

第1回ではコワーキングスペースが必要とされる社会的背景、利用者の属性、利用者が増えることが見込まれるIT技術の現状など、知識を習得。第2回・第4回では実際にコワーキングスペース・シェアオフィスを運営する会社代表を講師に招き、立ち上げ秘話・現状・課題・展望などをモデルケースとして学びました。第3回ではグループワーク形式でチームで目的を達成するために必要な「全体の利益」の認識の重要性を体感しました。第5回・第6回では実際にチー

ムとして動くことで、改めて一人ひとりの資質について考える機会を得、今後の事業推進に欠かせない外部への働きかけの重要性と手法を実感しました。また、各回の講座開催の間には、既存事業の視察、1000人規模のアンケート調査、受講生への働きかけなど、「枠」に捉われない活動を行うことで、当該講座を具現化するにあたっての信頼性・人脈を培うことができました。

成果と今後について

当事業で作成した実行プランをもとに、「ままいる」独自事業として、大野城市でコワーキングスペース「ままいるーむ」をオープン、「想いをカタチに」と謳ったテーマを正に実現させました。また、当講座の受講生のうち数名が運営メンバーに加わり、実行委員会の中核を成す団体として、今後の事業展開に欠かせないチーム構築という側面でも大きく前進しました。

最終回に発表した実行プランは、今後4年間にわたる事業計画です。メンバー一人ひとりがそれぞれの能力を活かした役割を担い、個々が楽しく、生き活きと活躍できる場を作っていくことで、さらに広く周りの人々を巻き込む仕組みを作り、今後も仕掛けていきたいと考えています。



志免活性化チーム結成！ イキイキとした女性が増えるとまちは明るくなる

主催：志免活性化チーム実行委員会
(志免マルシェ・志免町)

私たちが目指したこと

志免町は他の町も羨むほど元気な人が多い！純粋に志免町の活性化のために、春夏秋冬、非営利目的のイベントを有志の団体が行なっています。地域の課題としては、

- ① イベントのマンネリ化の危惧や、主催者など一部の人の負担が大きく、パワーがなくなれば、いいイベントが消滅していく。
- ② 志免町内の活気に格差があり、個人商店が減少し、買い物難民が多い。人と交流しながら買い物を楽しめるとい意味では心の買い物難民も多く、子連れ親子も例外ではないこと。
- ③ 志免町活性化につながる、有志のイベントを一括してお知らせするHPなどが無いこと。

①～③の課題をふまえて、地域活性化の位置づけを「志免町を元気にしているイベント団体の応援」とし、そのための人財育成に力をいれることに。「自分と志免町(または住んでいる町)のブランディング力、イベント企画力、会計力を身につけること」で、イベント補助もすぐにでき、自身でイベント企画ができる“自分で考えて行動できる”人財を育てることを目標としました。



私たちが行ったこと

具体的には、ブランディング力をつけるための講座内でのミッションを考えるワーク&グループメッセンジャーや復習会でのディスカッションでアウトプット力を鍛えて、自分の言葉で語る習慣を身につけてもらいました。

それをFacebookページへの投稿に活かし、「元気な志免人(しめんちゅ) 今ドキ情報」という、志免町や近郊の市町のイベントを一

括でお知らせするページを作成。

また、アナログ好きな方のために「志免ぐるぐるMAP」を作成。年間の目玉行事の掲載や、地図上に自分だけの目印を付けてオリジナルにも活用出来るようなデザインにこだわりました。

1月21日に開催したお試イベント、笑顔の和がここ(心)から(体)はじまる「ココからマル

シェ」は協力団体の一つ、栄光会 医療・介護施設かめやまにて開催。会場に来られた家族連れの方、車椅子の方、長年施設に入居している方も目で見て選べる買い物を楽しみ、体験ブースではたくさん笑顔が見られました。病気で買い物をあきらめていた方にも笑顔が見られたので、今後も継続していきたいと思ひます。



成果と今後について

成果としては、2月18日の最終、閉講式にてメンバーからのサプライズ動画のプレゼント！人を思いやり自主的にどうしたら人が喜び、町が活性化していくかを理解してくれたんだなと思った感動の瞬間でした！人財育成は形には見えにくいですが、現在は志免町役場、まちの魅力推進課が委託しているまちづくり支援室への登録に向けて、メンバーが出欠の取りまとめやどのように活動していくかを考えています。今後の活動もお楽しみに！



imojoプロジェクト始動！ 私自身をワンランクアップ

主催：菟田町「女性による元気な地域づくり応援講座事業」実行委員会
(つむぐ・菟田町)

私たちが目指したこと

菟田町の子育て中の女性を応援する活動を行っており、今回の実行委員のメンバーである地域団体「つむぐ。」と、まちの行政は、菟田町に住み関わっていく中で、こんなことを感じていました。「菟田町は転勤等で越してきた方が多く、地域で活動する若い世代が少なくなかなか新しいことに挑戦し辛い土壌であり、受け身の方が多いな」と。そこで、今回は既存の地域活動ではなく、新しいカタチでのまちとの関わり方を学び、これからこのまちで活動したいと思える人材を発掘し、増やしていきたいと考えました。



私たちが行ったこと

そんな現状と実行委員の考えを踏まえて、私たちが今回企画したのが「imojoプロジェクト」です。菟田産のさつまいも「紅はるか」の認知度を高めたいというまちの想いと実行委員の想いをマッチングさせ、女性目線でのさつまいものプロデュースを行いました。内容は、販促シールのデザイン・作成、ポスターのデザイン考案、お菓子屋さんとのメニュー考案、イベント用のPOPの作成です。受講生同士でグループワークをしたり、自分で考えた案を全員の前で発表したり、自分の言葉で話すということを大切にして講座を進めました。

出来上がった成果物を持って、まちの二つのイベントにも参加してきました。このイベントを通して、普段することのなかった社会経験をし、売り上げた達成感だけではなく、今後

に繋がるより良いスキルを身に付けたのではないかと思います。講座の初回は、不安で自信がなく、どうしていいのかわからなかった受講生も最後には、これからやりたいこと、頑張りたいこと、変わったことを自分の言葉で話してくれ、この講座の成果を感じました。



成果と今後について

実際に来年度、行政や他の機関、団体とタイアップして講座を企画する受講生や、菟田町で起業準備を行う受講生がいます。また、最初はまちに興味がない、地域活動は難しそうと思っていた受講生も、仲間と繋がったことで「何かしたい」と決意を表明していました。

また、今回の講座を通して、受講生、行政、認定農業者の方、町内のお菓子屋さん、社会福祉協議会など、今までは個々で存在していたものが繋がったように思います。受講生には、これからまちと結びつきながら、この講座で学んだ自分の強み、知識、経験、魅せ方、やり方を活かして色々なことにチャレンジして欲しいと思います。これから菟田町で活動する女性たちに乞うご期待。



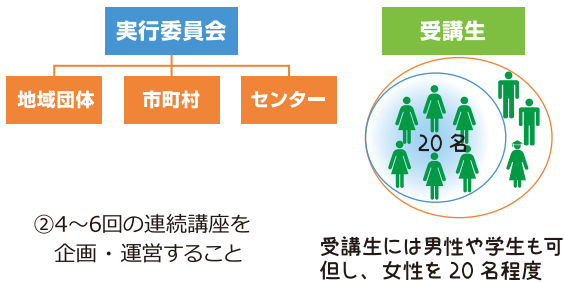
元気塾とは…

「女性による元気な地域づくり応援講座事業(通称:元気塾)」は、男女共同参画社会をつくるために、地域社会の課題をとらえ、問題解決に向けて行動し、「新しい地域の担い手」となる女性リーダーの育成に取り組んでいるものです。

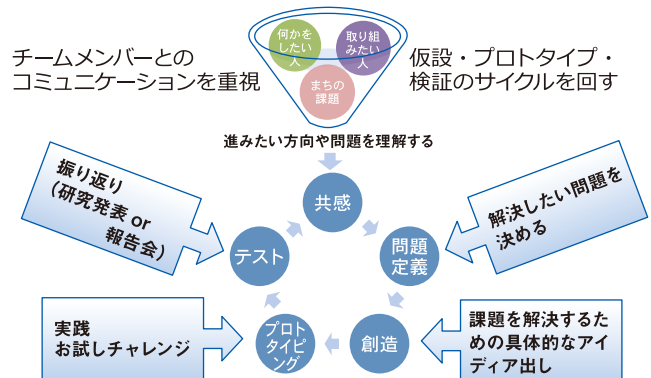
平成28年度に「あすばる」が策定した中長期指針「あすばる2020」によって、これまで直接県民に働きかけていた事業方式から、県民と日常的に接点のある組織や団体などの推進主体に働きかける方式に変更し、組織や団体を「つなげる」こと、その活動を「支える」こと、そして「盛り上げる」ことをこれからの役割としました。その象徴として、「元気塾」が平成28年度にスタートしました。

あすばるの役割 「つなげる」事業の特徴 募集要件

- ①実行委員会形式とする
- ③受講生は、女性20名程度



デザイン思考の要素 イノベーションの創出



「盛り上げる」ための取組みとして、「あすばる」のホームページやフェイスブックページで、積極的に発信!! フェイスブックページは、各実行委員が編集者になり、自ら発信してもらうようにしました。

6つの元気塾の詳細は「あすばるHP」で公開中!

あすばる 検索



「元気塾」が日本一に! ~全国女性会館協議会第11回事業企画大賞を受賞~

平成28年度の女性による元気な地域づくり応援講座事業(元気塾)の取組みが、※1特定非営利活動法人全国女性会館協議会の第11回事業企画大賞で、最高賞の『事業企画大賞』に選ばれ、表彰されました。



【講評】

地域団体、市町村及び市町村男女共同参画センターが連携して行う課題解決の取組みを支援する事業。ふくおか女性いきいき塾の卒業生が地域の女性リーダーへ人材が着実に育っていること、知識の習得に止まらない具体的な行動を伴う取組みであり確実な成果が見られること、地域の取組みをサポートする県センターの役割を十分に果たしていることを非常に高く評価します。30、40代の新しい女性人材が発掘されるなど、今後の事業の発展を期待します。

※1: 全国の男女共同参画センター、女性センター、女性会館等が加盟するネットワークです。